

③「日本語を使って何ができるのか」という課題遂行能力を「～できる」という文で記述したもの。

④ 1 コマは80分。ウクライナの高等教育機関の多くが1 コマ80分であることを基準とした。

学習者は「折紙」と「書道」を1回ずつ体験した。

⑤うち1名(社会人学習者)は、2日目から仕事の都合で不参加。

⑥ 定員以上の参加希望者が見込まれること、また、リピーターより初参加者を優先して受講してほしいことから設定した。

のウクライナ人教師は2名で、日本人教師は1名で担当。

参考文献

(1)国際交流基金(2014)「JF日本語教育スタンダード2010 第三版」国際交流基金

(2)国際交流基金(2013)「JF日本語教育スタンダード2010 利用者ガイドブック 第二版」国際交流基金

(3)国際交流基金(2006)「国際交流基金日本語教授法シリーズ 第1巻 日本語教師の役割/コースデザイン」株式会社ひつじ書房

(4)国際交流基金「JF日本語教育スタンダード」<<https://jfstandard.jp/>> 2016年1月1日参照

Д. Ояма, докторант,

Докторантура Осакаського міського
університету, м.Осака, Японія

大山大樹, 後期博士課程

大阪市立大学大学院, 日本国大阪市

グループワークにおいて発言の順番を待っている学習者のふりかえりの実際 ——日本語会話クラスの相互行為分析から——

本論文の目的は、筆者が考案した「グループ形式でペアワーク」という活動の方法を紹介し、その有効性を「ふりかえり」の観点から主張することである。そのために、グループワークを記録した動画の相互行為分析により、会話している学習者たちの傍らで自分の順番を待っている学習者が、自発的に三つの異なるあり方の「ふりかえり」を行っていることを示す。この点をふまえ、結論として、「グループ形式でペアワーク」の方法が、学習者に自発的な「ふりかえり」を促す機能を構造的に有することを指摘する。

キーワード：グループワーク, グループ形式でペアワーク, ふりかえり, 相互行為分析

1. はじめに

「学習者中心」の学習-教育観のもと、授業ではグループワークが重視されている。グループワークが導入されるのは、学習者たちが積極的に教え/学びあうことにより、様々な学習効果が期待できるからである。もちろん、グループを組んだからといって、必ずしも学習者たちが積極的にそうするとは限らない。そ

のため、これまで様々な技法が提案されてきたが(パークレイ他2009)、会話の活発さが目指されるあまり、やりとりに関わっていない学習者は否定的に捉えられる傾向にある(武藤2013)。しかし、不確定な状況において行為が成し遂げられる際の「ふりかえり」の重要性は(ショーン2007)、学習者たちが外国語で会話する場合においても同様であろう。このことから、学習者にとって、グループワークのなかで常に会話への参加を強いられる状況は、「ふりかえり」をする機会を失うことになるのではないかと考えられる。

この点をふまえ、筆者は「グループ形式でペアワーク」という活動の方法を考案し、実践した。本論文は、この方法を紹介するとともに、実際のグループワークを記録した動画の相互行為分析により、この方法が学習者たちに自発的な「ふりかえり」を促す機能を構造的に有していることを指摘し、その有効性を主張する。

2. 「グループ形式でペアワーク」

まずは、「グループ形式でペアワーク」の方法を紹介する。この方法では、学習者たちが3人グループを作ったうえで、ペアワークを行う。そして、会話を行うペアを変えていく。すなわち、学習者全員が発言する機会と、発言しなくてもよい機会も持つ。したがって、自分の順番を待つあいだに「ふりかえり」をする余裕が生まれる。

この方法を用いて、筆者は日本語クラスで会話のグループワークを行った。そのとき、学習者たちには、待っているあいだに「ふりかえり」をするように指示はしなかった。次章では、そのグループワークを記録した動画の相互行為分析により、この方法が学習者たちに自発的な「ふりかえり」を促す機能を構造的に有していることを指摘する。

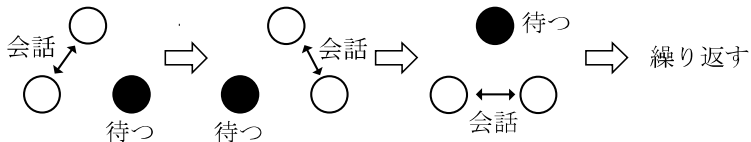


図1: 「グループ形式でペアワーク」の活動の流れ

3. 分析と考察

3.1. 分析データ

分析するデータは、2014年5月にウクライナの国立大学2年生（初級終了レベル）の日本語会話クラスにおいて、ひとつのグループをビデオカメラ1台で記録したものである。この日の授業目標は「上手に誘うことができる、上手に断ることができる」であった。授業は、まずいくつかの表現を記載したプリントを配布し、クラス全体でその意味の確認と発音練習を行った。次に、筆者が学習者たちを座席順に3人グループにし、各グループに「内容」「日時」「場所」についての情報が書かれたタスクカードを複数配った。そして、10分間のグループワークを指示した。活動は、まず誘う役の学習者がカードを1枚取り、その内容に従ってペアの学習者を誘う。誘われた学習者はその誘いを断る。ひとつのやりとりが終わ

ると、会話するペアを変え、同様に繰り返す。なお、学習内容は2ヶ月前に既に学んだものであり、したがってプリントの内容は既習であった。また、タスクカードの情報は、筆者が学習者たちの生活環境に合わせて作成した。

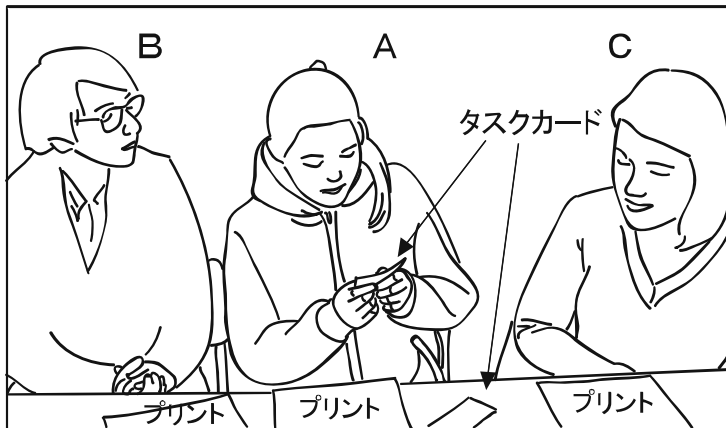


図2：学習者たちのグループワークの様子

3.2. トランスクリプション

分析するデータのトランスクリプションは、3人グループのため1行ごとに3人すべての発話状態を記す。A, B, Cは学習者を示し、それぞれに上から「発話」「視線」「ジェスチャー」を記述する。補助記号は、西阪(1997)と福島(2015)を参考にした。

表1：トランスクリプションの記号

記号	説明
(.)	0.2秒以下の間隙を示す。
(数字)	括弧内の数字の秒数の間隙を示す。基本的に0.2秒ごとに示す。
:	直前の音が引き延ばされていることを示す。数は相対的の長さを示す。
[オーバーラップの開始位置
=	連続する発話の文末と文頭にあり、両者が切れ目なく続いていることを示す。
hh	呼吸音。たいてい笑い声。数は相対的の長さを示す。
?	直前の音が上昇調のイントネーションを持つことを示す。疑問表現。
↑	直前の音が極端な上昇調のイントネーションを持つことを示す。
XX	聞き取り不可能であったことを示す。
→	矢印の前の文言は、2段目は視線が向けられている対象を、3段目はジェスチャーの内容を示し、矢印の終点は視線やジェスチャーがそこまで継続していることを示す。「p」は「プリント」、「card」は「タスクカード」、「f」は「顔」を示し、その前に置かれた大文字のアルファベットは、「Ap」なら「Aのプリント」のように、その所有者を示す。なお、(off)は、画面に映っていないため、視線が確認できないことを示す。

3.3. ペアの会話を聞いて、ふりかえる

分析の結果、学習者たちは自分の順番を待っているあいだに、三つの異なるあり方の「ふりかえり」を行っていることが分かった。第一に、その学習者が、ペアの会話をきっかけとして「ふりかえり」を行っているケースを示す。以下に示す相互行為は、Aが誘う役、Bが断る役として会話が行われ、Cが自分の順番を待っている場面である。

(1) 【事例1】

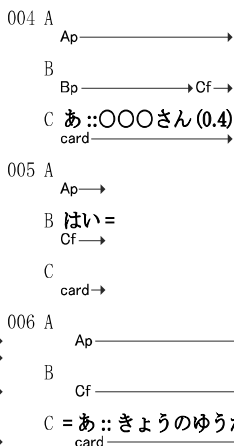
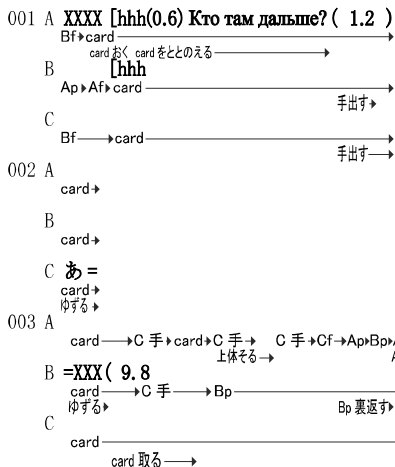
001 A	いま:(2.0) やす(.)ん ::(.) やすみ?(0.4)	004 A	へ:行きましょう↑(0.6)
	Ap → Bf → Ap →		Ap → Bf →
B	Ap → Af →	B	Af → 上 →
C	Ap →	C	Ap →
002 A	Ap →	005 A	Bf →
B	はい(0.4)	B	マクドナルズですが:(0.4) あ <small>cardおろす</small> の(.)あ <small>の</small> :::(0.4)
	Af →		上 → Af → 前方 →
C	Ap → Bf →	C	Ap → Bf →
003 A	ん:だけど:(1.4) マクドナルズ:(1.0)	006 A	Bf →
	Ap → card → Ap →	B	実は(.)あ:(1.0) 最近デートをしたんだけど::
B	Af → cardあげる →		前方 → Af → 前方 → Af → 前方 →
C	Bf → Ap →	C	Bf → Cp →

AとBの会話の傍らで、Cは、Aが話している時はAのプリントに視線を向けているが、Bが話し出すとBの顔を見る(002行目、005行目)。そして、Bの発話「実は」に反応し、自身のプリントに視線を向ける(006行目)。これらのことから、Cがただ漠然と自分の順番を待っているのではなくAとBの会話を聞いていること、そして、Bの発話がきっかけとなりCがプリントで何かを確認するに至ったことが分かる。

3.4. 自分の順番が終わったあと、ふりかえる

第二に、学習者が会話を終えて待つ順番になったときに、「ふりかえり」を行っているケースを示す。以下に示す相互行為は、Aが誘う役としてBと会話を終え、続いてCが誘う役、Bが断る役となり、Aに待つ順番が回ってきたところである。

(2) 【事例2】 (004行目のCの発話「ooo」は、Bの名前が発話されたことを示す)



会話を終えたAはカードを机の上に置き、次の学習者のためにカードの山を整え、「Кто там дальше? (次は誰?)」と発話する(001行目)。そして、Cがカードを取ってその内容を確認しているその傍らで、自身のプリントを取り上げ(003行目)、BとCの会話が始まって自身のプリントを見ている(004-006行目)。これらのことから、Aが、先ほど終わった自身の会話をふまえてプリントで何かを確認していることが分かる。

3.5. 自分が発話する時に備えて、ふりかえる

第三に、学習者が次に回ってくる順番に備えて、「ふりかえり」を行っているケースを示す。以下に示す相互行為は、Bが誘う役、Cが断る役として会話しており、Aが自分の順番を待っている場面である。順番としては、次はAに誘う役が回ってくる。なお、トランスクリプションのTは、学習者たちの対面にいる教師を示す。

(3) 【事例3】



自分の順番を待っているAは、Cが断っているその傍らで次のカードを取り、その内容を確認し始める(001行目)。そして、TとCの会話を聞きつつ確認を続けたのち(002-003行目)、プリントに視線を移す(003行目)。これらのことから、Aが自分の順番に備えてプリントで何かを確認していることが分かる。

4. まとめ

以上の分析から、「グループ形式でペアワーク」において、学習者たちは自分の順番を待っているあいだに、「ふりかえり」をするように指示がなくても、自発的に三つの異なるあり方の「ふりかえり」を行っていることが分かった。このことは、グループワークでありながら会話への参加を強いられないという、この方法が有する構造そのものが、学習者たちに自発的な「ふりかえり」を促す装置として機能していることを示している。この点において、この方法はきわめて有効な学びの手段であると言える。

参考文献

- (1) ショーン, D. A.(2007)『省察的实践とは何か——プロフェッショナルの行為と思考——』柳沢昌一・三輪建二(監訳), 鳳書房
- (2) 西阪仰(1997)『相互行為分析という視点——文化と心の社会学的記述』金子書房
- (3) バークレイ, E. F., クロス, K. P. & メジャー, C. H.(2009)『協同学習の技法——大学教育の手引き』安永悟(監訳), ナカニシヤ出版
- (4) 福島祥行(2015)「協働学習における「学習者」の構築—フランス語初修者の相互行為分析から—」『人文研究』66巻, 153-171.
- (5) 武藤理恵(2013)「言語活動における沈黙の意味——沈黙は言語活動の停滞か——」『言語文化教育研究』11号, 175-189.

УДК8»81»33 / 1994

I. Riabovolenko, PhD, senior teacher

Kyiv State Maritime Academy named after
Hetman Petro Konashevich-Sahaydachnyi, Kyiv

CLASSIFICATION OF COMMUNICATIVE ERRORS IN CROSS-CULTURAL COMMUNICATION

Analyzing the communicative errors, their causes and solutions must be considered as their extra-linguistic and linguistic features. In the article, with a view to the practical use of the results of research, we decided to resort to the classification of the two types of factors and samples of their interaction with each other to identify major errors in communication and help students to overcome the language barrier

Key words: *communicative errors, extra-linguistic factors, verbal and non-verbal signals, context.*

Articles on these issues cover a wide range of issues – from the fundamental works in theory and methodological to descriptive ones and pedagogical (methodical literature issues). Modern linguists have a tendency to unite all aspects of non-verbal communication